



山田マキヨさん  
(伊丹沢)

昔、わが家の床が板張りだった頃、夏は板の上に直接、冬は<sup>むしろ</sup>蓆を織って敷き、その上で暮らしていました。入り口は障子戸で、そのまま外に面していましたから、豪雨や台風  
のときは、障子が濡れてよれよれになったりしたものです（笑）。

掃除の時は、板の間に雑巾がけをしますが、おしゅうとさんと2人、雑巾がけをするときは、ムラにならないよう「までい」にかけるようによく言われたものです。また、私は山育ちなので（笑）燃やす薪は山に行けばいくらでもあるものと思っていて、取  
ってきた分をどんどんと燃やしていました。ところが、おしゅうとさんは「もっとまでいに、折って燃やせ」といって、薪を必要な分だけ取り、折ってくべていました。またご飯も1  
回の食事に必要な分だけを炊き、食べ終わった後も、釜のへりについてご飯粒を水でおとし、糊さえも食べる人でした。

昔の何もない時代だからやったことなのかなあと私も思っていますが、必要な分を必要な分だけ使い、無駄にしない。つまりそういうことだったのかなと今は思います。

男女共同参画社会を考える

「『いいいたて』エンジェルプラン」誕生！



く生きたいはず。喜びのある人生は希望をもちたらずは。そして、希望のあるところには命の誕生があるはず」という、まさに少子化対策の大きな柱でありました。

年齢や性別を越え、地域社会の一員として、生活を

楽しみ、人の役に立ち、人

間らしい生活をおくってい

ける環境づくりをめざして

「いいいたてエンジェルプラ

ン」が発刊され、先月全戸

に配られました。

これは、少子化対策とし

て国が示してきた計画書で

ある「エンゼルプラン」と

男女共同参画社会づくりの

計画書「男女共同参画プラ

ン」を融合させた画期的な

プランです。

製作にあたり、「なぜ、

このプランが必要なのか

「男女を同じに考えろとい

うのか」というような議論

がありました。しかし、そ

の結論は「人はすべて、性

別にかかわらず、自分らし

このプランは大きく4つに分けてあります。

いきいき学校では

たすけ合う地域社会では

てづくりの村では

と、それぞれの場所を取り

組んでほしいことが示して

あります。その取り組みの

一歩は小さなものかもしれ

ません。しかし一歩一歩進

んでいくうちに、新しい何

かが見えてくるに違いあり

ません。

どうぞ、「いいいたてエン

ジェルプラン」をもう一度

お手元において目を通して

いただき、家族の一員とし

ての役割、男女がパートナー

として参画する地域、職場

づくりとは何か話し合っ

てみてください。